



CAJLE Newsletter

Number. 62
June 2021

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

目次

会長の言葉	1
CAJLE2020 年次大会実行委員よりお知らせ	2
◆中島和子先生のビデオのご紹介	
CAJLE2021 年次大会のご案内	2
INVITATION TO CAJLE 2021 ANNUAL CONFERENCE	4
特集記事 1 : コロナ禍からの覚書 コロナ後の私達へ	5
◆石川先生、中島先生、吉川先生	
特集記事 2 : コロナ禍でも元気な カナダの先生たち!	7
◆シャープ先生・石川先生、ラッセル先生、木下先生、アイロン先生	
CAJLE 活動報告	11
◆継承語オンラインネットワーク	
◆第 32 回カナダ日本語弁論大会後記	
◆日本語教育グローバルネットワークプロジェクト	
学校紹介	13
◆エドモントン補習授業校	
◆リンジーサーバー高校	
国際交流基金コーナー	15
CAJLE よりお知らせ	16
2020 年下半期活動報告	17
編集後記	18
会員規定	19

Editors: Mika Kimura (Chief),
Tomoko Bailey Ujie, Yukiko Yoshizumi,
YanJun Zhang

Copyright©CAJLE 2021

会長の言葉 CAJLE 会長 青木恵子

突然放り込まれたパンデミックから1年と少し経ちました。全国各地でワクチンの接種が進み、ロックダウン解除の道筋が示されつつありますが、一方で今も感染拡大の波が収まらず厳しい制限が強いられている地域もあります。一刻も早く収束することを願っています。

収束後の「ニューノーマル」はどんな世界になっているのでしょうか。最近「この一年を振り返る」様々な記事や催しを目にします。あるカウンセラーが「全員が空を飛びながら空中にクリニックを作るようなものだった」と述懐していましたが、教育機関にとっても同じような状況だったのではないのでしょうか。学びを止めないために、一人一人がはぐれてしまわないように、各所と連携を取りながら手探りでしかも大急ぎでオンラインの場を構築していかれたのではないかと思います。協力しあって難題に取り組む中、Breaking down silos（脱サイロ化）と呼ばれるように、壁がどんどん取り払われ、疎通が前に増してスムーズになりました。この方向性はコロナが収まったからといって元通りになることはないでしょう。また、ICTの大きな進歩により選択肢が多様化したことで、学習者や学習形態もますます多様化し、教育はコロナ前とは違う形に進化していくのではないかと予想しています。

さて、2021年のCAJLE年次大会は初めてのオンライン開催となります。アルバータ大学高円宮日本センターとCAJLEとの共催により、「コロナ後の日本語教育：変革と成長の機会へ」をテーマに掲げ、プレ大会イベントを含めて3日間の日程での開催を予定しております。国内外の方々が参加しやすいよう時差を考慮し、同期・非同期を取り入れるなど、オンラインの良さを生かしたプログラム内容となっています。詳しくは本号の大会ページ（p.2）をご覧ください。多くの皆様にお越しいただき、活発な議論の場となることを願っております。

CAJLE2020 年次大会実行委員長よりお知らせ

皆さんもご存知のように 2020 年度の年次大会はコロナ感染拡大によりキャンセルとなりましたが、招聘講師の中島和子先生のご厚意により講演ビデオをご提供いただきました。CAJLE2020 年次大会実行委員長よりご紹介いたします。—編集部

中島和子先生のビデオのご紹介

大会実行委員長：相津頼子

トロント大学名誉教授、中島和子先生が、CAJLE2020 年次大会（於オタワ）でご講演くださる予定であった講演をご厚意により、ご準備し・録画くださいました。現在、CAJLE ウェブサイトでそちらの講演ビデオをご覧いただけます。中島先生は、カナダにおけるバイリンガル・マルチリンガル教育の第一人者でいらっしゃる、オタワ大会では、大会前日に、大会参加者だけでなく、継承語教育に携わる方も対象にした一般公開講演と、大会中に大会参加者を対象にした特別講演をしてくださる予定でした。今回、その二つの講演を一つにまとめた「カナダで育つバイリンガル・マルチリンガル」というタイトルの講演ビデオをご準備くださいました。

講演では、バイリンガル・マルチリンガル教育理論の原則 4 つを基に、国、地域社会、学校そして家庭レベルでの継承語教育についてお話しくださりました。カナダ国内での取り組みを 2019 年に日本で制定された「日本語教育推進法」とその後の議論に関連づけながらご紹介くださったり、「継承語」の特徴に鑑み、家庭や学校でできる事をご教示くださるなど、充実した内容で継承語教育に携わる方々にとって大変参考になるお話です。講演ビデオは CAJLE ウェブサイト上でご覧いただけますので、[こちら](#)からアクセスください。視聴期間は 1 年間（2022 年 3 月まで）となっております。皆様、是非ご覧ください。

CAJLE 2021 年次大会のご案内

大会実行委員長 青木裕美 藤原文

本年度の CAJLE 年次大会は、アルバータ大学と高円宮日本研究教育センターが共催し、8 月 18 日（水）・19 日（木）にオンラインで行われます。『コロナ後の日本語教育：変革と成長の機会へ』というテーマのもと、コロナ禍で始まったオンライン授業をきっかけに、私たち日本語教師が学んだこと、そして炙り出された日本語教育の課題などを共有、議論し、教師の役割や授業のあり方など、これからの日本語教育の方向性を考える学びの場にしたいと考えています。

これまでの大会同様、オンライン開催の本大会でも、招聘講師による基調講演や教師研修の他、口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブルを予定しています。基調講演、教師研修、ラウンドテーブルは当日のライブ配信で行い、口頭発表とポスター発表につきましては、大会 5 日前からビデオ録画及びポスターをオンデマンドでご覧いただき、質疑応答をライブ配信で行う予定です。口頭発表のビデオ録画とポスターは大会後 3 日間参加者に公開されますので、大会中見逃してしまった発表もご覧になることができます。また、大会の開催時間は、カナダ国内外の様々な地域からの参加者にお集まりいただくことを考慮し、エドモントン時間(MDT)の正午から午後 8 時の時間帯に開催されます。

本年度の基調講演と教師研修には、日本語教育・教師教育に関する講演・研修のほか、小・中・高等学校への指導助言など、様々な教育活動に携わっていらっしゃる西南学院大学教授の横溝紳一郎先生をお招きします。

『授業改善の視点と方法』と題した基調講演では、自己成長を目指して自らの教授活動を振り返る手法として教育現場で幅広く認識されているアクション・リサーチに焦点を当て、教師の成長を促すプロセスについてお話しいたします。そして、『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング理論と実践』と題した教師研修では、学習者の能動的な学びを促すことを目的とするアクティブ・ラーニングの理論を学び、自律的な学習を促すには何をすべきかという視点から授業の改善点、具体的な教え方の工夫を皆様と一しよに考えます。

さらに、国際交流基金・アルバータ州教育省の吉川景子先生には、教室内の学習を教室の外にある実際のコミュニケーション場面につなげる手法について、フレーザーバレー大学助教、ジョアン・ロバートソン先生には、デジタルツールを活用した学習者の自律性と主体性を育む第二言語教育について、それぞれのご専門分野から教師研修を行っていただく予定です。

また、大会前日 8 月 17 日（水）には、プレ大会イベントとして、一般公開の教師研修も行います。講師には 2021 年 ACTFL(全米外国語教育協会) National Language Teacher of the Year に選ばれた、アメリカ、ルイヴィルのイースタン高校で日本語を教えていらっしゃる、エレナ・カメネツキー先生をお招きします。研修では、対人コミュニケーションスキルの習得や自己信頼心（自信）の育成における語学教育の有効性と教師の役割について考察します。参加者は、まず自らがこの一年の困難をどのように乗り越えてきたかを振り返り、その経験をどのように学習者支援に生かすかを考えます。大会プログラム、参加申し込みの詳細は [CAJLE 大会ウェブサイト](#) にて 6 月初旬にお知らせいたします。8 月にたくさんの皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



Photo: © University of Alberta

INVITATION TO CAJLE 2021 ANNUAL CONFERENCE

Hiromi Aoki & Aya Fujiwara, Organizing Committee for CAJLE 2021

This year's CAJLE Annual Conference, co-sponsored by the University of Alberta and the Prince Takamado Japan Centre for Teaching and Research, will be held online on Wednesday, August 18 and Thursday, August 19. Under the theme of "Japanese Language Education in the Post-COVID-19 Era – Opportunities for Change and Growth," we would like to share and discuss what we Japanese language teachers have learned through the online classes that started as a countermeasure against the spread of COVID-19, as well as the pedagogical issues that have surfaced. We would like to make this a learning opportunity to think about the future direction of Japanese language education, including the role of teachers and the way classes should be conducted.

As in the past, this year's online conference will feature a keynote lecture and teacher training workshops by invited speakers, as well as oral presentations, poster presentations, and roundtables. The keynote lecture, teacher training workshops, and roundtables will be streamed live on the days of the conference, while the oral and poster presentations will be video-recorded and made available on-demand five days before the conference, and the question and answer sessions will be streamed live. Video recordings of oral presentations and posters will be available to participants for three days after the conference so that they can view any presentations they may have missed during the conference. The conference will be held between noon and 8:00 p.m. Edmonton time (MDT) in order to accommodate participants from various parts of Canada and abroad.

This year's keynote lecture and one of the teacher training workshops will be given by Professor Shinichiro Yokomizo of Seinan Gakuin University, who is involved in a variety of educational activities, including lectures and training on Japanese language education and teacher education, as well as providing guidance and advice to elementary, junior high, and senior high schools. In his keynote lecture titled "Viewpoints and Ways to Improve Our Classes," he will focus on action research, which is widely recognized in education as a method for reflecting on one's teaching practice with the aim of personal growth, and talk about the process of promoting teacher growth. In the teacher training entitled "Active Learning for Teachers of the Japanese Language: Theory and Practices," participants will learn about the theory of active learning, which aims to encourage learners' active learning, and discuss how to improve one's class and devise specific teaching techniques from the perspective of what should be done to promote autonomous learning. In addition, Ms. Keiko Yoshikawa of the Japan Foundation and Alberta Education and Dr. Joanne Robertson, Assistant Professor at the University of the Fraser Valley, will conduct teacher training workshops in their respective fields of expertise. Ms. Yoshikawa's workshop will cover how to connect learning in the classroom to actual communicative situations outside the classroom. Dr. Robertson's workshop will examine theoretical conceptualizations of language learner autonomy and explore examples of digitally enhanced instructional practices and online platforms that help to foster autonomy and agency in language learners.

On Wednesday, August 17, the day before the conference, we will also hold a pre-conference event, a teacher training workshop open to the public. We have invited Ms. Elena Kamenetzky, who was selected as the 2021 ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages) National Language Teacher of the Year and teaches Japanese at Eastern High School in Louisville, USA. Her workshop will cover the effectiveness of language education and the role of teachers in developing students' interpersonal communication skills and self-confidence. Participants will first reflect on how they have overcome the difficulties of the past year, and how they can use their experiences to support learners.

The program and registration details will be posted on the [CAJLE website](#) in early June. We look forward to seeing many of you at the conference in August.

特集記事 1：コロナ禍からの覚書 - コロナ後の私達へ

コロナ感染が拡大しオンライン授業など新しい授業形態に移行させられた本年度 (2020-2021)も終わりに近づきましたが、皆さんの一年はいかがでしたでしょうか。今振り返ると大変な一年でしたが、その中でも学びや気づきがあったと感じている方も多いかもかもしれません。また、最近ではワクチン接種も進み、州によっては 9 月から本格的に対面授業を再開するという話が聞こえてきている中、今後の授業方法について考えている方もいるかもしれません。

さて、「対面授業再開」と聞いて、皆さんはどんな授業を行おうと思いますか。コロナ前と同じ授業に戻ることでしょうか。それとも、これまでとは違う授業でしょうか。違う授業と言っても、何をどのようにしたらいいか、またオンライン授業で使ったツールをどう対面授業に活かしたらいいかなど悩んでいないでしょうか。CAJLE では本年度の年次大会のテーマを『コロナ後の日本語教育: 変革と成長の機会へ』とし、このコロナ禍での経験をどのように日本語教師としての成長につなげていくか、そして学習者の自律性を育む授業について考える機会を提供したいと考えています。その第一歩として、本号の特集記事では 3 名の先生方にそれぞれのお立場から本年度の体験、実践から学べること、対面授業になっても継続したいこと、活用できることなどを覚書のように提案していただきました。—編集部

ニューノーマルな対面授業～もう元にはもどれない～

石川比奈子 (カルガリー大学、アルバータ州)

「いつから対面に戻りますか」最近、よく耳にする質問です。今はわかりませんが、その時がきたら、オンライン授業で培ったツールの知識や経験を生かしてパワーアップしたいですね。皆さんは、何を生かしたいですか。

私は「反転授業」です。理由は反転ビデオが予習用だけでなく、復習用、欠席者用、使い道はたくさんある上、学生さんに大好評だったからです。対面の時は、クラスで文法説明の時間がありました。でもこれ、学生さんは先生の話聞くだけの受け身スタイル。それが、反転授業にしてから、きちんと授業に向き合って、積極的にクラスに参加してくれています。

ただ「反転ビデオ見ない問題」があります。でもビデオを見るということを評価に入れる事で解決できないでしょうか。評価も Edpuzzle や Google フォームなどで、こちらがクイズを作るのではなく、ビデオを見て自分のノートを出してもらうという方法が、採点も楽で、うまくいったように思います。反転ビデオを作りたくない先生は、学生さんに反転ビデオを作ってもらおうプロジェクトにしたり、YouTube にある動画を利用するのも手だと思います。

反転授業の最大のメリットは「知識を得る時間」を「授業外」にすることで、もっとインタラクティブな活動時間が増える事。例えば、形容詞の活動で「今から学校にある面白い物」の写真をスマホで撮ってきてと指示。Padlet や Jamboard に写真をあげてもらいどんな形容表現ができるかグループで考えるという活動はどうでしょうか。オンラインで使っていたツールを使い、「クラスオリジナル教材」が即席でできます。

対面に戻ると言っても、元に戻るのではなくて、より協働活動の場を増やし、オンラインでも使っていたツールを生かし、ニューノーマルな対面授業にチャレンジしたいと思っています。

オンライン授業の経験の何を対面授業に活用したいか、 そして他の先生への提案

中島範昭（コキットラム日本語アカデミー、ブリティッシュ・コロンビア州）

一時的なものだと思っていた ZOOM を使用したオンライン授業ですが、今もまだ続いています。最初は、経験も知識も何も無く、参考になるものをインターネットで検索したのですが、世界的に同時にこのような状況に入ったので参考になるようなページは、そのころはまだ見つかりませんでした。仕方なく、まずはいかにこれまで教室でしていた「対面授業」に近づけることができるかを考えました。ホワイトボードに板書できない代わりに、iPad と Apple Pen でプリントの代わりに PDF ファイルに書き込み、それを画面シェアするなど、何とか基本的な対面授業に必要な活動はオンラインでもできるようにになりました。だんだん自分にも必要な知識が身についたり、利用できそうなスキルを探したり、いつもの「対面授業」よりも、「オンライン授業」を楽しそうに見せる工夫などもできるようになりました。今回の経験のおかげで、「対面授業」に戻っても、「オンライン授業」で使用したデバイスやプレゼンテーションなどを利用して、より子どもたちが興味を持ってくれる授業づくりができるのではないかと思います。

例えば、授業中にぱっと出た疑問や知らないことも、インターネットにつながっていることによって、すぐに見たり聞いたりできる画像や動画などの資料を見せることができました。また、これまで週に一回やっていたテストなども、オンラインにしたことにより、あらかじめリンクを送っておくと、本番の日まで 100 点になるまで何回でも繰り返し練習することができました。結果がすぐにわかるので、「次はもっといい点数を取りたい！」という向上心をくすぐることもできます。そして、保護者との連絡もコロナ禍に入り、メールなどのやり取りがより密になった気がします。

いくつかオンラインでの授業には長所があり、技術的に活用したいという部分もあります。しかし、この状況に強制的に入ったことで、いかに人と人との面と向かってのコミュニケーションが大切かということを経験したことから痛感しました。

教室にいる教師と生徒たちが空間を共有し、一体感が感じられる。肉眼で子どもたちの様子を見ることができ、イヤホンを通さずに声が聴ける。生徒たちの動作、記述する文字を確認することができる。これまで、教師はそれらを感じながら、子どもたちの学習を能力面も情緒面もサポートしていました。

「オンライン授業」を経験したことで、逆に「対面授業」の貴重さを感じ、意識すれば新しい形の効果的に授業パフォーマンスをあげていけるのではないかと感じております。

対面授業に戻ったら、何をどう使う？

吉川景子

（国際交流基金派遣日本語上級専門家、アルバータ州教育省日本語教育アドバイザー）

JFT 第 3 回つながろう！カナダで日本語を教える人たち（4 月 28 日実施）では、学習者の関与を高める方法、コロナ後の対面授業でも活かせるようなアイデアについて話し合いました。先生方からは対面授業に戻っても使いたいツールとして、Google 系、Kahoot!、Flipgrid、Padlet、Whiteboard.fi、Flippity.net、StoryJumper、Mentimeter、Pear Deck、Seesaw（子ども向け）など、さまざまなツールがあげられました。

今までの対面授業ではワークシートなど紙に書いたり、タスクシートを使ってアクティビティを行ったりすることが多かったと思います。今後は、教師が QR コードを教室のスライドに映し、学習者がスマホで手軽に個人や協働での活動に取り組み、その結果を教師がスライドに映して話し合いを進めるなど、共有もしやすくなりそうです。授業の最後の振り返りもその場で書いてもらったものの中からいくつか意見を取り上げ、紹介することもさっとできそうです。

そのような便利なツールですが、私達教師はツールを使うことが目的にならないよう、何のために、どのような効果があるから使っているのかということは忘れずに考えたいと思います。ツールを使った活動が、語彙や文法の確認のレベルなのか、協働作業をしながら、意見を深めていく活動なのか、紙ではできなかった創造性を発揮できる活動なのか、などを考え、ツールの特徴を活かしながら、新たな対面授業を作っていきましょう！

特集記事 2 : コロナ禍でも元気なカナダの先生たち！

コロナ禍では自由に人に会ったり、話したりすることが制限され、改めて「人と人とのつながり」の大切さを考えさせられました。特にカナダは国土が広く、これまでも日本語教育に携わる私達が地域を超えて一堂に会する難しさもありました。しかし、オンライン授業への移行で Zoom などの使用が日常的になり、地域や国を超えてつながることや活動することがこれまでとは違った形で簡単にできるようになりました。

この特集記事 2 ではコロナ禍での「つながり」に注目しました。ここカナダでも Zoom などのツールを使い学習者同士の学びや日本語教育関係者をサポートする活動を行っていた先生方がいます。その目的は様々ですが、カナダの日本語教育のために頑張っている先生方を紹介することで、会員の皆さんにも元気をお届けできればと思います。

皆さんや皆さんの周りにも「こんな活動があります！」「こんなことを計画しています！」「こうやって元気を共有しています！」というようなお話がありましたら、ぜひ編集部までお知らせください！—編集部

げんきシェア会 ~つながろう先生~

シャープ昭子・石川比奈子（カルガリー大学、アルバータ州）

オンライン授業に切り替わってから、皆さんは他の先生と話す機会が減りませんでしたか。
一人で黙々と教材を作り、愚痴も言えず、孤独に、ただひたすら走ってきたんじゃないでしょうか。

ぼやきながら、コロナが終わるのを待つだけでなく、オンラインでできることを探して、あれこれやってみる機会が持てたら。そして、孤独になってしまった時に話をする場を持てたら、きっと元気にこの危機を乗り越えられる！そんな思いで「げんきシェア会」を企画いたしました。これは、カルガリー大学の日本語プログラムが发起人となり、南アルバータ教師会と共同で毎月第二日曜日の午前 10 時から 11 時、ズームで集まる「シェア会」という発想の集まりです。シェア会では、ICT ツールの勉強をして、雑談、愚痴、悩み、失敗談、成功談をシェア。そして、なにより「元気」をシェアをしています。

シェア会は、昨年の 11 月から、集中講座も含め計 9 回、これまで 48 名の先生方に御参加いただきました。先生方からは「学校の枠を超えて、いろいろな方にお会いできたり、授業に活躍しそうなツールを教えてください、本当に元気をいただきました」「意欲が出ます」などの嬉しい声も聞いています。

5 月からはカナダ中の日本語教育関係者の方達と一緒に、日本時間の金曜日の晩に展開されている「ハナキン」のカナダバージョン、「Zoom でハナニチ in カナダ」がハナニチ実行員会主催、げんきシェア会の共催で開催されることが決定しました。Zoom のブレイクアウトルームを使い、面白いお部屋で話しましょう。ご興味がある方は、ぜひ、[こちらのグループメール](#)にご参加ください。ご案内をお送りします。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

第一回 JTCC (Japanese/TPRS/CI/CCLT) コンファレンスの紹介と報告

マシュー・ラッセル (オークベイ高校、ビクトリア、ブリティッシュ・コロンビア州)

今年、初の JTCC(Japanese TPRS/CI/CCLT)オンラインコンファレンスを、4 月 9 日-10 日に開催しました。TPRS(Teaching Proficiency through Reading and Storytelling)とは、物語や対話の中の文脈を通して習得していく言語教育のアプローチで、これによって、今までのような文法ありきの授業ではなくても、生徒たちは自然に言語を習得していきます。このコンファレンスのゴールは、日本語 TPRS の教材や知識のベースを固め、広めていくことであり、全てのプレゼンテーションは、私の“Russell Sensei” YouTube チャンネルに投稿していきます。

今回のプレゼンテーションでは、TPRS の基礎とクラスを進めるスピードの重要性、物の数え方やライティングのスキルの習得、小学校での TPRS の使い方、TPR(Total Physical Response)を使用しジェスチャーでいかに生徒たちを惹きつけ効果を出すか、新しい TPRS 日本語教材の紹介や、効果的な Movie Talk の方法等について説明されています。私のプレゼンテーションでは、TPRS を使った日本語クラスの全体的なカリキュラムやプログラムの組み方についてお話させていただきました。TPRS の授業は、ゲームのような楽しい雰囲気から、文法中心の授業のような授業計画が必要ないようにみられる傾向があります。しかし、TPRS でも効果的な授業を行うためには授業計画が大変重要になります。私はこれまで 3 年半、この TPRS で日本語を教えておりますが、生徒たちの言語習得面で効果が見られただけでなく、日本語の授業を取る生徒も高校 4 学年で 45 人から 135 人に増えてきております！

今回全てのプレゼンターの方や参加者の皆さんが、大変熱心に参加して下さったことを嬉しく思い、翌年のコンファレンスをより良いものにし、より多くの方々に参加していただけることを願っております。もし TPRS にご興味のある方は、是非今回コンファレンスの YouTube プレゼンテーション動画と、EasyJapaneseStories.com /JTCC に登録していただき、来年のコンファレンスをお待ちいただけたらと思います。

コンファレンスのリンク：<https://www.youtube.com/playlist?list=PLzg8uHGJsN1hHGbYUYr2wzMYWalDwtj7h>

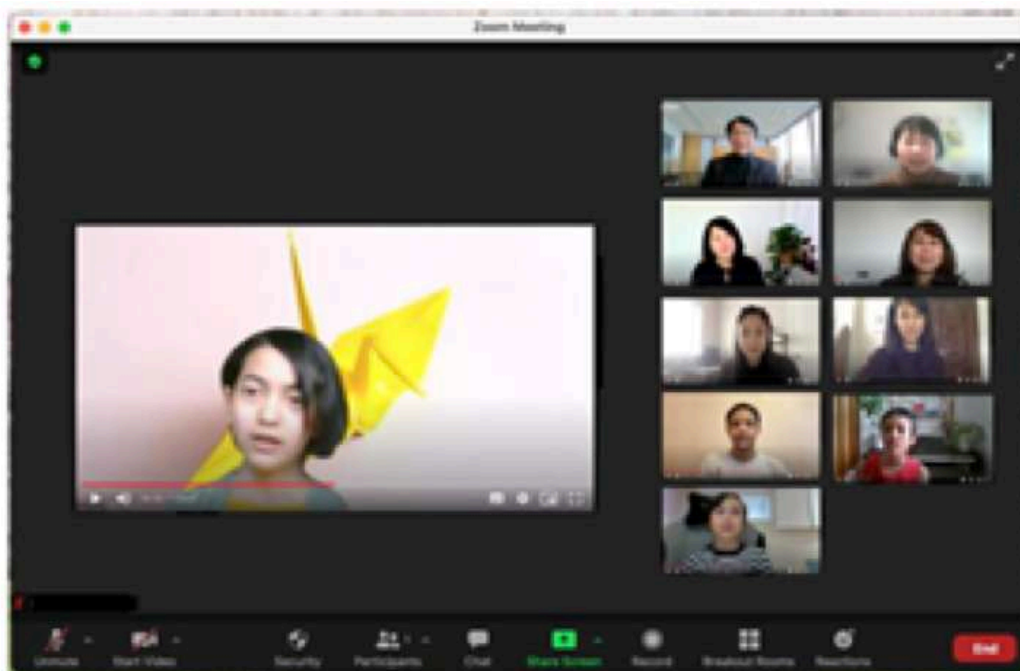
Russell Sensei のリンク：https://www.youtube.com/channel/UCHysF_Y4-vEryojtuCp2HcQ

Easy Japanese Stories のリンク：<https://easyjapanesestories.com/>

カナダ国内 第一回日本語スピーチコンテスト

モンリオール日本語センター主催、
国際交流基金トロント文化センター、在モンリオール日本国総領事館 後援

児童教員 木下直子（モンリオール日本語センター）



2021年3月13日、ケベック州にある継承語教育機関の一つであるモンリオール日本語センターが主催するスピーチコンテストがオンラインにより開催されました。このコンテストは、継承語日本語学習者が対象で、対象年齢は小学部低学年から中高等部でした。テーマは「私／ぼくの好きな日本のもの・こと」です。当機関は、機関内でのスピーチコンテストも未経験でしたが、このコロナ禍で特別に国際交流基金より支援を受けることができ、他州からでも参加可能なオンラインによる特別課外授業やイベントを、いくつか3学期に企画をいたしました。スピーチコンテストはその中の一つのイベントで、運営が「このような状況の中でも、日本語学習継続をしている子供たちを応援するようなイベントにしたい」という思いで、オンラインの強みを生かし、思い切ってカナダ全土から出場者を募ってみることにしました。

当然のことながら、実施未経験のところからのスタートのため、手探りで企画をはじめました。審査員をお願いした大学や他州の継承語教育機関で子供たちのスピーチの審査などに携わってこられた先生方にも助言をいただきました。実施まで1ヶ月ほどしかなく、当初募集開始してからも出場希望者が少なく、途中不安を抱いていましたが、徐々に応募者も増え、最終、カナダ全土いろんなエリアから、小学低学年（1～3年）部門9名、小学高学年（4～6年）部門6名、中高等2名の18名の参加者が出場しました。

当日は、子供たちが生き生きと、一生懸命自分の好きな「日本」の何かについて話してくれ、言葉からはその思いが溢れており、そして何かを伝えたいという意思を強く感じました。どのスピーチも素晴らしく、各部門優劣のつけようのないほどでした。そのような難しい選考の中で、領事館のご厚意により、賞の数を急遽増やしていただきました。参加者からも「親子でとても良い経験になった」「感動して子どもの横で涙が出た」「また参

加したい」というご意見をいただきました。私自身も裏方で作業をしながら、子どもたちのスピーチを傍で聞いて、慣れないオンラインという状況でありながらも、前を向き、一生懸命話すその姿勢に心を打たれました。これは恐らくその場にいる人全員が共有した、時差や場所を超えた特別な時間だったのではないかと思います。これがもしオンラインではなかったら、地理条件で出会えなかった子供たちだったかもしれません。でもオンラインではありますが、同じようにがんばっている仲間がいることを感じる、それだけでも貴重な経験となったのではないかと思います。

今後の課題としては、「自分一人でどこまで取り組めたか」という部分が不明確で、今回それに関する審査基準がなかったため、審査経験豊富な先生方から助言がありました。あと、時期的にたくさんのイベントが重なったこともあり、全てが時間のない中で取り組まれたため、運営にも負担が大きかったと感じました。運営を担う保護者の献身的な働きにより支えられていますが、今後この素晴らしいイベントを引き継ぐにあたり、余裕を持って協働作業ができるような事前準備をしていく必要があると感じました。

今後も引き続き、この感動を繋いで、子どもたちの日本語モチベーションが上がっていくような働きかけをしていきたいと願っています。

Alberta High School Japanese Speech Contest

ミリアム・アイロン（リンジーサーバー高校、アルバータ州）

アルバータの高校には10校程日本語のプログラムがあり、スピーチコンテストは8年間続いています。その前は5年間程、高校生同士がエドモントンにあるハリーエインリー高校で開かれたアニメ祭に参加し、スキットコンテストもしていました。しかし、アニメ祭とスキットコンテストを同時に行うのが難しいので、スピーチコンテストだけのイベントを企画することになりました。今年はスピーチコンテストのカテゴリーが3つあります。初級と中級、そしてビデオのカテゴリーです。初級レベルはアルバータ州の日本語と文化のカリキュラムで習っていた内容で、中級レベルはアルバータ州のカリキュラム外の内容が含まれているスピーチです。生徒の教師が判断して、どのレベルに登録するか決めます。ビデオカテゴリーでは、ルールがいくつかあります。まず、アテレコをしてはいけません。次に生徒は必ず顔を見せなければなりません。また、長く話す場面も必要です。以前はライブでのスキット発表をするカテゴリーもありましたが、申し込み数が少ないのでやめました。最後にエンターテイメントのカテゴリーもあります。審査員がスピーチやビデオの審査結果を話し合っている間にダンスや歌や演劇をしてもらいます。もちろん全て日本語の歌です。

2013年から2019年まで、中級レベルで優勝した生徒が主催者の賞金で日本に行き、海外高校生によるスピーチコンテスト（Education Guardianshipが主催している）に参加していました。残念なことに、この2年間は中止となってしまいました。ただ、幸いなことに、アルバータ州の高校生のスピーチコンテストへの参加人数は変わらず、参加学校数は増えました。

審査員は大学教師、国際交流基金の教師、日本語母語の方達です。主催はエドモントン日本文化協会、国際交流基金、在カルガリー日本総領事館、アルバータ日本貿易懇話会です。皆様のおかげでこのイベントを続けることができています。今後もアルバータ州の高校生を応援してください。

CAJLE 活動報告

CAJLE より継承語オンラインネットワーク、全カナダ日本語弁論大会、日本語教育グローバルネットワークの三つの活動をご報告いたします。— 編集部

継承語オンラインネットワーク

CAJLE は国際交流基金トロント日本文化センターと共催で、継承語教育機関・グループをつなぐネットワークを作り、情報、ノウハウの共有、相談ができる場として、2019年より、「継承語オンラインネットワーク」を開始しております。

第四回は、「コロナ禍で現場がどう変わったか、問題や悩みはなにか」など実践的な内容をテーマとして、2020年12月17日午後7時(ET)に開催しました。前半は、各地からの発表として、3校からの報告をいただきました。最初は、マニトバ州ウィニペグ、JCAM 日本語学校さんからコロナ状況下での対面授業の準備と実践、そしてZOOMでの授業について。継承語クラスから大人クラスまでである中でのご苦労は、多くの学校にとっても同意、共感できる内容でした。2校目は、モントリオール日本語センターさんより、オンライン運動会の紹介。年少者を対象としたオンライン運動会で、関係者を含め合計約100名。言語活動ではないものの、身体を動かし、主体的に楽しめるオンラインイベントとして可能性を示してくれました。最後は、大規模校であるトロント補習授業校より、オンライン授業移行による課題とトラブルについて報告をいただきました。急遽オンライン授業を導入したことから、生徒、保護者、教師の間に様々なトラブルが起き、またオンライン授業になったことで退校した生徒も多く、運営上も厳しくなったことを報告いただきました。後半は、オンライン環境下で、使えるツール、活動、家庭学習サポート、日本語学習の継続といったテーマに分かれての小グループディスカッション。予定時間を超過するほど、多くの意見が出され、コロナ禍で継承語学校が苦労されながらも様々な工夫で頑張っていることを共有できたと思います。

第五回は、「コロナ禍での日本語教育」と題し、2021年5月20日午後7時(ET)に開催しました。教師、運営、保護者というそれぞれ違った立場からご登壇いただき、問題点と解決工夫についてお話頂いたのち、参加者からのQ&Aを設けました。ご登壇いただいたのは、教師の立場から、マニトバ日本文化協会 八木様、運営の立場から、モントリオール日本語センター 井澤様、保護者の立場から、森のまち日本語学校 白川様。継承語学校を違った視点、立場から知る、本ネットワークならではの意見交換の場になりました。後半は、対象学齢別、地域別に分かれた少人数ディスカッションを2セット。カナダ全土から、様々な立場で継承語日本語教育に関わる方が参加くださる本ネットワークの姿が見えてくる内容となりました。

次回、第六回は、2021年12月9日(木)を予定しています。



CAJLE TWITTER フォローお願いします！ @CAJLE_ACELJ

年次大会、GN プロジェクト、その他日本語教育関係の情報について発信しています。

第 32 回全カナダ日本語弁論大会開催後記

CAJLE 全国弁論大会部門担当

2021年3月28日、全国大会組織委員会・CAJLEの共催により第32回全カナダ日本語弁論大会を開催しました。本大会には、例年カナダ7地区大会の各カテゴリー（初級・中級・上級・オープン）第一位通過者が参加します。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ケベック州大会が中止となり、6地区23名が昨年に引き続きZoom/ライブ発信併用のオンラインで参加する形となりました。それぞれの出場者が、自分の経験や家族

・社会との繋がりを通して感じたり考えたりした事を豊かな表現を用い、発表してくれました。実際に会場に集まることができず残念でしたが、ライブ発信したことで世界中の多くの方々にご覧いただけ、出場者にとってこれまで学習した成果を披露でき、更なる学習意欲へとつながったのではないかと思います。本大会のプログラムと文集は[CAJLEのウェブページ](#)上でご覧いただけます。オンライン開催となりましたが、出場者の熱意と努力、そしてそれに応えてくださったスポンサー、開催地、全国大会組織委員のみなさまのご尽力のおかげで成功裏に終えられたことを大変嬉しく、ありがたく思っております。ここに地区大会を含め弁論大会に出場した全ての参加者の努力と成果を祝福し、ご指導下さった先生方、地区大会実行委員会の皆様、審査員の皆様、開催地実行委員長の金梨花先生はじめブリティッシュ・コロンビア大学の皆様、全国大会実行委員の皆様、在バンクーバー日本国総領事館、そしてご支援くださったスポンサーである三井カナダ様、トロント商工会様、高円宮日本研究教育センター様に心よりお礼申し上げます。



出場者の皆さん（UBC 提供）

日本語教育グローバルネットワークプロジェクト 「セカイの日本語～みんなの声～」活動報告

プロジェクトチーム（米本和弘・柴田智子・川口真代・津田麻美・林寿子）

本プロジェクトでは、多様な日本語使用者の「声」を集め、日本語にまつわる様々な考え方や経験を通して、言語と話者の多様性について理解を促進することを目的としています。

【ワークショップ開催】

日本語プロフィシエンシー研究学会（2021年1月）、秋田日本語教育研究会（2021年2月）において、「セカイの日本語～みんなの声～」のウェブサイトを用いて、特に言語と話者に対する参加者自身の見方を振り返ることを目的としたワークショップを実施しました。ワークショップでは、言語ポートレートを使い、自身の中に存在する言語の多様性について意識化した後、言語や話者の多様性について考える上で鍵となる考え方について、ウェブサイトの日本語話者のストーリーを参照しながら確認していきました。参加者からは「日本語という言語に対する自身の考えや視点について意識化することができた」、「言語教育の中でも多様性に関する問題に取り組んでいく必要性が再認識できた」といった声が聞かれました。

また、世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会（2021年3月）でも、ウェブサイトを用いて、日本語の多様性へどのようにアプローチできるのか意見交換をしました。

【新ウェブサイトへの移行】

本プロジェクトで立ち上げたウェブサイト「セカイの日本語～みんなの声～」が[新ウェブサイト](#)へ移行しました。これまでと同様、日本語話者のストーリーが掲載してありますが、キーワードによる検索など新しく追加された機能もありますので、ぜひご覧ください。引き続き、ストーリーを掲載していくとともに、具体的にどのような目的で、どのように使うことができるのか、また、使っていただいた感想なども掲載していく予定です。

プロジェクトの概要やワークショップ等の詳細は [CAJLE ウェブサイト](#)にも掲載してあります。その他、プロジェクトに関するご質問やご興味がおありの際は、是非ご連絡ください。

— 学校紹介 —

今回の「学校紹介」は、本年度オンラインでの年次大会を主催するアルバータ大学があるアルバータ州よりエドモントン補習授業校とリンジーサーバー高校の日本語プログラムをご紹介します。 — 編集部

アルバータ州 エドモントン補習授業校

長倉由紀子

エドモントン補習授業校は1977年3月末に4名の日本人カナダ在住者によってエドモントンに住む子ども達に継承語としての日本語を身につけてほしいという願いのもとに創立され、4クラス生徒数30名でスタートしました。学校の運営をはじめ、行事の企画実行、毎週の校舎や遊び場の監督など、保護者がボランティアで行っています。現在幼稚科年中から中学3年まで92名の生徒が、毎週金曜日の午後5時45分から3時間、日本政府支

給の国語の教科書を使って(小 1~中 3)、年 40 回の授業を教師 12 名で行っています。2020 年 3 月までは Harry Ainlay 高校の教室を借りていましたが、4 月からは COVID-19 が収束するまで online 授業となりました。Metro Edmonton Japanese Community School の英文名が示すように、コミュニティスクールとして登録されており、基本的な日本語のできる成人も希望があれば受け入れるため、小さな児童生徒と一緒に授業を受ける微笑ましい光景も見られることもあります。

学校予算や海外子女教育振興財団グラント、寄付などにより図書も充実しており、毎週図書スペースに移動書架数を広げ、休憩時間や図書の時間は漫画や本を借りに来る生徒でにぎわっています。学校行事としては入学式、学期の始業・終業式、運動会、年二回の授業参観、火災避難訓練、習字教室、学芸会、中学生弁論大会、卒業式を行っています。11 月末の学芸会は幼稚科から中 3 まで各クラスがオペレッタや劇を上演します。教師は台本を書き、舞台の背景、大道具や衣装などは保護者の手作りで 10 月から練習して生徒保護者全員で鑑賞します。日本語を生活の中で実際に使う機会の少ない生徒たちにとっては貴重な体験で、日本語学習の意欲と自信につながります。

週 1 回の授業と宿題、家庭で日本語を話すなどで、よく頑張っていて勉強し進級していますが、英語環境の中での日本語習得は楽ではありません。生徒が途中で諦めず、継続して補習校で学べるよう小学 4 年からは言葉の意味などを英語で調べるなど最小限度の英語も使用して教えるクラスも併設されました。今後も保護者の協力を得て、教師一同、質を落とさず現状に即したカリキュラムや指導方法について研究し、全ての生徒が補習校での勉強が楽しいと思い、達成感とともに卒業して次の段階に進むことができる補習校を目指したいと思っています。

アルバータ州 リンジーサーバー高校の日本語プログラム

ミリアム・アイロン

リンジーサーバー高校の日本語プログラムは 1988 年に始まりました。レッドディア教育員会が日本の領事館を通して、日本から来た教師を一人雇いました。最初の教師は、北海道から来た中山ふくお先生でした。中山先生は旅行が好きで、二年間教鞭をとられました。中山先生にいただいた素敵な茶道の道具はまだあります。その後も、日本から来た教師が二年間教えました。その時の豪華なかぶとかざりは今も食堂に飾ってあります。現在は、カナダ人教師が日本語を教えています。今、中学三年生から高校三年生までのコースがあります。日本語 9、アルバータ州の日本語と日本文化プログラムである日本語 10、20、そして 30 の授業があります。日本語を取っている高校生的人数は他の大きい町と比べてあまり多くありませんが、日本語に興味がある生徒はいます。予算が限られているので、二つのレベルの複式の授業や人数が多いクラスも時々あります。

以前は、二週間の交換留学プログラムもありました。最初は山手学院と交換留学プログラムを行いました。その後、北海道の旭川凌雲高等学校と行いました。また、大阪の公立高校と二回、岡山学芸高校と一回実施しました。今、日本に行くことはできませんが、将来また日本に行くプログラムを企画できればと思っています。

国際交流基金コーナー

NEW！国際交流基金トロント日本文化センター図書館 電子書籍の貸出サービス開始

高井あゆみ（Library Manager）

一時閉館が続いている図書館ですが、この度 OverDrive 電子書籍の貸出サービスを始めました。



jfor.overdrive.com

日本語学習・教育に役立つ書籍をはじめ、一般教養、雑学、料理、文化、歴史、芸術、小説、児童書、マンガなど様々なジャンルの日本関連の電子図書・オーディオブックを多数取り揃えています。現在約 1,000 タイトルほど所蔵しており、これからさらに充実させていく予定です。これまでは、主にトロント市内・近郊にお住まいの方が図書館サービスを利用されてきましたが、これでカナダのどこからでも 24 時間 365 日アクセス可能となりました。ぜひご活用ください。

利用するには：

当館利用カードをお持ちの方が利用できます。

- 日本に興味がある
- 14 歳以上
- カナダ在住（新規申込日から 3 か月以上滞在することが条件）

であればどなたでもお申込み可能です。

まだ図書館利用カードをお持ちでない、またはすでにアカウントの期限が切れている場合は、指定の申込書に記入・署名をし、library@jfor.org までご申請ください。

申込書はこちらから>> https://jfor.org/wp-content/uploads/Library-card-application_202103_fillable.pdf

<利用規則>

- 貸出冊数：5 冊まで
- 貸出日数：21 日（電子図書・オーディオブック）、7 日（映画）
- 延長回数：可能（すでに予約が入っている場合を除く）
- 予約冊数：5 冊まで可能

さらに詳しい情報・利用ガイドについては、こちらをお読みください。

<https://jfor.org/library/collection-and-services/>

— CAJLE よりお知らせ —

ジャーナル CAJLE23 号 ジャーナル編集部

ジャーナル CAJLE では例年通り投稿論文（査読付き）を受け付けております。2022 年 1 月 10 日までにご投稿いただいた論文は同年の（2022 年）の掲載号（Volume 23）に向けての審査・査読対象とさせていただきます。詳細は CAJLE ウェブページにて[投稿ガイドライン](#)をご覧ください。

We are accepting manuscript submissions for peer review to be considered for publication. Manuscripts submitted by January 10, 2022 will be guaranteed to be reviewed and considered for publication in the same year's volume. Our next volume (Volume 23) will be published in the summer of 2022. For further details, please consult the full [guidelines at the CAJLE website](#).

地域研修会支援金について REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND 広報部

CAJLE 地域研修会支援金は、カナダ全域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。これまで BC 州バンクーバー、SK 州レジャイナ、ON 州ロンドン、ON 州オタワ、とさまざまな地域において研修会・情報交換会が実施されてきました。会員自らが企画する地域のニーズに応じた教師研修や教師間のネットワーク作りを支援いたします。詳細は [CAJLE ウェブサイト](#) をご覧ください。また、制限時間を気にせずに地域研修が行えるよう Zoom の使用も支援しております。皆様からのお申し込みをお待ちしております。

CAJLE introduced the Regional Workshop/Meeting Support Fund, and this has allowed broad-ranged activities that assist with the growth of Japanese language education in Canada. Workshops have been held in various regions such as Vancouver, Regina, London, and Ottawa. We support teacher training and networking among teachers that meets the needs of the community, organized by the member themselves. We also support the use of Zoom so that regional training can be conducted without worrying about time limits. For more information, please see our [website](#). We look forward to receiving your application.

日本語教育グローバルネットワークプロジェクト

CAJLE 活動報告のセクションでもお知らせしましたように、本プロジェクトで立ち上げたウェブサイト「[セカイの日本語～みんなの声～](#)」が[新ウェブサイト](#)へ移行しました。これまでと同様、日本語話者のストーリーを掲載してありますが、キーワードによる検索など新しく追加された機能もありますので、ぜひご覧ください。引き続き、ストーリーを掲載していくとともに、具体的にどのような目的で、どのように使うことができるのか、また、使っていただいた感想なども掲載していく予定です。

プロジェクトの概要やワークショップ等の詳細は [CAJLE ウェブサイト](#) にも掲載してあります。その他、プロジェクトに関するご質問やご興味がおありの際は、是非ご連絡ください。

CAJLE2020 年度下半期活動報告

書記 白川理恵、ベイリー氏江智子

理事会担当報告及び承認事項

2020年 12月1日	・ 広報部よりニュースレター61号発行
12月9日	・ 第6回オンライン理事会開催
12月12日	・ ウェブサイトに弁論地区大会の情報掲載
12月17日	・ 第4回継承語オンラインネットワーク開催 オンラインで実施 共催：CAJLE、国際交流基金トロント 交流の場として Slack を開設
2021年 1月9日	・ GN 企画ワークショップ実施 於 日本語プロフィシエンシー研究学会 ・ 米本氏と岩崎氏（ヨーロッパ日本語教師会）参加
2月4日	・ 発表企画と年次大会実行委員合同ミーティング オンライン開催の際の役割分担について話し合う ・ CFP を広報開始
2月10日	・ 第7回オンライン理事会開催 ・ GN 企画に島山氏も参加決定
2月18日	・ 中島先生の講演を録画 3月より1年の視聴期間予定でビデオをウェブサイトへ掲載
2月27日	・ GN 企画ワークショップ実施 於 秋田日本語教育研究会 米本氏参加
3月20日	・ GN 企画 世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会 柴田、米本、津田、林、川口+岩崎各氏参加
3月28日	・ 「第32回全カナダ日本語弁論大会」開催 オンラインで実施 カナダ全土6地区から参加（ケベック州は州大会が中止された） 共催：全国大会組織委員会、CAJLE
4月14日	・ 第8回オンライン理事会開催
5月20日	・ 第5回継承語オンラインネットワーク開催 オンラインで実施 共催：CAJLE、国際交流基金トロント

編集後記

◆オンライン授業をこなすのに精一杯なこの 1 年だった。その中で有り難かったのが他の先生方とのつながりだ。Zoom の普及のおかげで、これまで学期中はメールなどでしか連絡することができなかった方々と、画面越しで様々な情報を共有したり、お話ししたりすることができ、とても助けられた。また、たくさんの方々と知り合うことができたのもこのコロナ禍での楽しみの一つだった。これからもどんどんカナダの先生方とつながっていきたいと思う！（島人@維多利亞）◆どんどん以前の状態に戻りつつあるアメリカの様子をニュースで見て教師が生徒が保護者が翻弄されたコロナ禍が過去のものとなる日が近づいているのを感じる。人間のど元過ぎれば何とやらにならないためにもニュースレターで取り上げ記録し将来またこのような危機が起こった際の参考となればと強く願った今回であった。（猫婦人@北晚香波）◆オンライン授業になり、授業の準備やビデオの作成などでいつもクタクタ、、、そんな 1 年だった。しかし、オンラインで開催されるカナダ国内外のセミナーやワークショップに参加することができ、学びの多い 1 年でもあった。そしてなんとといっても、カナダ全国の先生方とお話する機会が増えたのも良かった。まだまだコロナ禍は続くだろうが、プラスになるようなことを見つけ、前向きな気持ちを持ち続けようと思う。（善・多倫多）◆この春からワクチン接種の進行につれ、次第にコロナの出口が見えてきた。今回の編集の中で何よりも印象的だったのは、オンライン授業がどうなるのかわからないという新しいスタイルに対する不安が減ったことや、お互いに支え合っているおかげで、エネルギーがみんなの間で循環して、活性化させることができたことだ。また 8 月の年次大会で、みなさんとオンラインでお会いでき、お話出来ることを楽しみにしている。（詩織・倫敦）

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 CAJLE.PR@gmail.com までメールをお寄せ下さい。

CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at CAJLE.PR@gmail.com

カナダ日本語教育振興会
Canadian Association for Japanese Language Education
P. O. Box 75133
20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada
Web: <http://www.cajle.info/>

会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・CAJL ジャーナル CAJLE (査読付き) への投稿資格
- ・年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用：年会費 \$15 (通常\$45)

会費年度

毎年1月1日から12月31日まで。

会員の種類

一般会員 (1年)	\$45 CAD
一般会員 (3年)	\$120 CAD
学生会員 (1年)	\$30 CAD
組織会員 (1年、4名まで*)	\$120 CAD

*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

CAJLEホームページのメンバーシップページ (About us) より、オンラインにてお申し込みいただけます。小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。<http://www.jp.cajle.info/>

申込先：

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。cajle.kaikei@gmail.com

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

CAJLE membership entitles you to:

- CAJLE membership entitles you to:
- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
 - Receive various announcements related to Japanese education via email.
 - Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
 - Present research at the CAJLE annual conference
 - Submit manuscripts for Journal CAJLE (peer-reviewed)
 - Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

Term of Membership:

The term of membership runs from January 1 of each year through December 31.

Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$120 CAD
Student Membership (1 year)	\$30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$120 CAD

*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

Please visit our website and open "Membership" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on www.cajle.info) and mail or email it with the appropriate membership fee.

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Please notify us at the following email address if your contact information changes: cajle.kaikei@gmail.com